

提携米通信

2012年6月号・黒瀬農舎

暑かったり、寒かったり



酸度矯正と殺菌のため木酢液を撒きました。12.05.05

4月初旬には全国各地に暴風が吹き荒れましたが、天候はその後も不順です。

雨や低温が続いたかと思うと、急に記録的な高温好天が来るなど、百姓の私たちは「翻弄」されっぱなしです。

我が家は、農薬や化学肥料を使わない苗作りです。

病気が出ないように、育苗温度が上がらない露地で浅く水を張る

「プール育苗方式」のため、暴風被害も受けず今年の苗は順調に育ちました。

これは、今年の天候が、余りにも不順なために、苗床作りなど例年以上に丁寧に行った結果だと、過去を反省したり、満足したりしています。

本田の田植え準備は、先ず最初に、プラウで耕起 → その後数日土を干して、碎土とレベラー均平 → 有機元肥肥料の散布 → 入水して代掻き（シロカキ） → そしていよいよ田植え作業となります。

天候が好い年は、これらの作業を全部の田圃を一気に進めますが、プラウ耕やレベラー均平は、1週間以上好天が続いて土が乾かないと作業できないので、今年は、乾いた田圃を選んで、区切りながらの作業です。

田圃が乾いて、更に、その後3、4日は雨が来ないことを見定めてプラウ耕を始めないと、プラウ耕を行ってから大雨に遭えば、半月経過しても次の行程作業が出来なくなります。

このため、日中もブラブラしている日がある反面、作業に入れば、夜明けから暗くなるまでぶっ通しの作業になります。

今まで私一人の時は、今年のような悪天候の年には、体力的にも気苦労も大変でしたが、今は、息子も就労5年を過ぎ作業にも慣れて大助りです。

今年の田植えは、5月22日に始めました。その後1週間ほど開けて再開して、6月始めまでには終わらせそうです。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

本格的にスタートした今年のお米作り

私たち一家が滋賀県から日本列島を800Km北上して、八郎潟干拓地で米作りを始めてから30年余りが経ちました。

八郎湖の水をくみ上げ干陸間もない田圃は、名前は田圃でも、実際は、泥沼のような荒野で、田植えや収穫時期の農繁期は、それこそ「家族中が死にもの狂い」でした。



田圃が乾かずプラウ耕が遅れました 012.05.18

でも30年余り経過した現在は、年々田圃も硬くなり、また、当時からすると、トラクターやコンバインなどの農機具の精度や性能も飛躍的に向上しました。

最近TPP問題に関連して、日本農業の規模拡大が言われていますが、慣行栽培の米作りなら、家族2人の自家労力で、15~20%はほとんどの農家が処理できるようになりました。

どんな職業であっても個人の能力差がありますが、農業も同じです。

プロの優秀な人なら、農薬や化学肥料を使う前提の米作りは30%、もしくはこの規模を超えるお米作りも家族だけで可能な時代になりました。

しかし、我が農舎では20年余り前から、化学肥料や病害虫農薬を15%全部の田圃で使わず、また、除草剤も10%の田圃では使わない完全無農薬栽培を行っています。

化学肥料を使うか使わないかは、労力など作業効率には余り関係しませんが、病害虫農薬を使わないお米作りは、病気や害虫に侵されないように緻密な管理が要求されます。

また、除草剤を使わない栽培は、雑草が生えないように種々の作業に手を掛けた上に、それでも雑草は生えてきますから、その草取り作業に多大な労力が必要になります。

本来なら、15%全部の田圃で除草剤も排除した完全無農薬を行いたいのですが、草対策にパートさんの応援を求めても、現状ではこれが限界です。

ところで、当地は福島原発事故による汚染を幸運にも免れました。

そこで、今年のお米作りで一番気を付けている点は、先号でも少し紹介しましたが、有機資材の放射性物質の持ち込み防止です。

秋田県はチェルノブイリ事故以降、毎年水田土壌の放射性Csの経年検査していますが、今春の検査結果でも「福島事故による増加は見られない。」と発表しています。

この幸運を生かすために、今年使用予定の有機資材の放射性Csの検査を行って、全て1ベクレル以下と厳格化致しました。

日本各地の土壌には福島事故以前から放射性Csが100ベクレル存在する地域もあるようですが、この原因は、チェルノブイリ事故と旧ソ連や中国など外国の核実験の影響だと推察されています。

外国から放射性物質が気流に乗って飛来した日に、たまたま降雨があった所が土壌残留量が多くなっているようです。

また黄砂の降下の多い九州などは、中国の核実験の影響が大きいと考えられます。

このように、福島事故以前から、日本ではほとんどの土壌に放射性Csが10~50ベクレルあることからすると、今年投入する有機資材の基準を結果的に1ベクレル未満と厳格化したことは、少し厳しすぎる面もありますが、どなたも知らず知らずに外食や食材購入で放射性物質を摂取することになるので、主食のお米は、可能な限り減らしたいと思ったからです。

このような状況ですので、今年のお米も安心してお召し上がり頂けます。



放射能汚染のない有機肥料の散布 05.21



田植えスタート 012.05.22
孫の「悠真」も幼稚園から帰れば直ぐに田圃へ